

尾瀬入山10万6922人

2020年、コロナ影響し最少

福島、群馬、新潟、栃木四県にまたがる尾瀬国立公園の二〇二〇（令和二）年の入山者は十万六千九百二十二人で、前年より十四万七千七十八人減少し

た。新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛などの影響により、統計を取り始めた一九八九（平成元）年以降、最も少なくなり、初めて十万人台となっ

た。環境省が十八日、発表した。これまで最少だった二〇一九年の二十四万七千七百人を大きく下回った。本県側にある入山口

五方所からの二〇二〇年の入山者は計三万二千四百五十八人。五、六月はゼロだった。この期間は御池―沼山峠間のシャトルバスが運休した他、檜枝岐

村が村内施設への営業自粛を要請していた。

尾瀬国立公園の入山者は近年減少しており、環境省は尾瀬沼ビジターセンターの新築工事など施設の充実化に取り組んでいる。担当者は「感染収束後を見据え、入山者の満足度を高め、リピーターを増やせるよう取り組みを進めたい」としている。